条幅部自由参考

7月25日正午必着

明石春浦先生書

良賈深藏若虛（ちゅうこはふかくそうしてむなしきがごとし）（史　記）

すぐれた人は深くうちにたくわえおさめて妄（みだり）に外にあらわすことがない。

明石幸子書

晝蟬已傷念（ちゅうぜんすでにおもいをいたましむ）　夜露復霑衣（やろまたころもをうるおす）

昔別曾何道（むかしわかれしにかつてなにをかいえる）　今夕螢火飛（こんせきけいかとぶ）（呉　均）

昼の蟬の声を聞くだけでも思い悲しいものがあるのに、夜露（よつゆ）がまた衣をうるおす。昔別れのときに何を言い残されたのか（早く帰ってくるといったではありませんか）。それなのに今夕はもう螢が飛ぶようになった。

7月25日正午必着

冷艶全欺レ雪　餘香乍入レ衣　春風且莫レ定　吹向二玉階一飛（丘　為）

菅井松雲先生書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

碧潭夜月（参同契）

芳春已共二煙花一盡
孟夏俄驚二草木長一　（王守仁）

西陵夜居　（呉　融）

寒潮落二遠汀一　瞑色入二柴扉一
漏永沉沉靜　燈孤的的青
林風移二宿鳥一　池雨定二流螢一
盡夕成二愁絶一　啼蜚莫レ近レ庭

碧潭の夜月

芳春已に煙花と共に尽き
孟夏俄に草木の長ずるに驚く。

西陵の夜居　呉　融

寒潮　遠汀に落ち　瞑色　柴扉に入る
漏は永くして　沈沈として静かに　灯は孤にして　的的として青し
林風　宿　鳥を移し　池雨　流螢を定む
尽夕　愁絶を成す　啼蜚　庭に近づくこと莫かれ

青々とした水をたたえた淵にうつる月影。
よき春も最早や霞や花と共にすぎゆき、初夏の候となって今更の如く草木の茂るのに驚く。

かの　オランダのギヤマンのしづけさもて　わが空想の前に青む夏の夜　（内藤　鎮策）

半紙部規定課題Ａ

7月25日正午必着

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

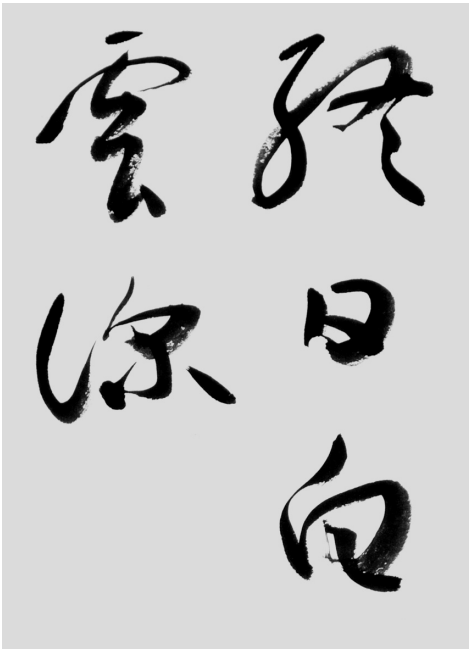
※課題Ａ（楷書）と課題Ｂ（四体の中より一書体選択）の二点を出品のこと。

半紙部規定課題Ｂ

7月25日正午必着

行書

草書



隷書

行草書

明石春浦先生書

寄二霊一上人一
劉長卿

高僧本姓竺
開士舊名林
一去二春山裏一
千峯不レ可レ尋
新年芳草遍
終日白雲深
欲下徇二微官一去上
懸知訝二此心一

霊一上人に寄す
劉長卿

高僧　本姓は竺
開士　旧名は林
一たび春山の裏に去り
千峯　尋ぬ可からず
新年　芳草遍く
終日　白雲深し
微官に徇って去らんと欲す
懸かに知る　此の心を訝るを

（出典）
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

徳高き上人、本来の姓は竺といい　菩薩のごときお方、もとの名は林という
いったん春山の中に行っておしまいになれば　数知れぬ峰々の奥、お尋ねすることもできません
新たなる年に、春のかぐわしい草があたりいちめんに茂り　一日じゅう、白い雲は深くとざしこめる
ささやかな官職にこの身を捧げて行こうとしておりますが　この凡俗の心を奇妙に思っておられることが、ここからでもわかります

臨書課題・半紙部参考

太素之先、幽清元静、冥默不
象、厥中惟霊、厥外惟無、如是
久焉、斯以溟涬、盖乃道之根、
根既建、自無生有、太素始萌

太素（之先）

西　墨濤先生臨書

清　趙之謙（ちょうしけん）・開元占経（かいげんせんきょう）

道光九年（一八二九）七月九日浙江省紹興に生まれ、光緒十年（一八八四）五十六歳で没した。はじめ字を益甫、冷君と号し、三十代になって字を撝叔（きしゅく）、悲盦（ひあん）・无悶（むもん）・憨寮（かんりょう）などと号した。

町の有力な商家の二男として生まれ、幼い頃から学問に目覚め、その才能を発揮していたが、家の没落、妻子の死という悲劇に見舞われた。科挙の推薦試験に合格していた彼は、三十五歳の時に進士の試験を受ける為に北京に上ったが、そこで出会った多くの人々や豊富な金石書画に触れ、すぐさまその道にのめり込んでいった。応試は二の次になり、五度の受験も結局及第することは出来なかった。

彼の才能は書画篆刻に発揮されたが、書は晩年に熟境に到った。応試に必須であった顔法に始まり、北魏の刻石に触発され、さらに包世臣の書論における逆入平出の法に心酔し、独自の解釈を加えて彼の書法は完成していった。

開元占経は唐代の天文、占星術などに関する書物で、これは後漢の張衡が著わした霊憲の一節を趙之謙が隷書で四屏幅に書いたもの。彼が四十歳、逆入平出の技法に最も熱を入れていた頃の書と言われている。

（春濤）

条幅部臨書参考

西　墨濤先生臨書

蓋乃道之根（けだしすなわちみちのこんなり）

≪倣書参考≫　※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

青苔地上消殘暑、綠樹陰前逐晚涼（白居易）

青苔のしきつめたあたりには残暑も消えうせ、夕暮近く緑樹の蔭に涼を追う。

7月25日正午必着

教育部毛筆

雨宮春聲先生書

富士登山（ふじとざん）　中学一年

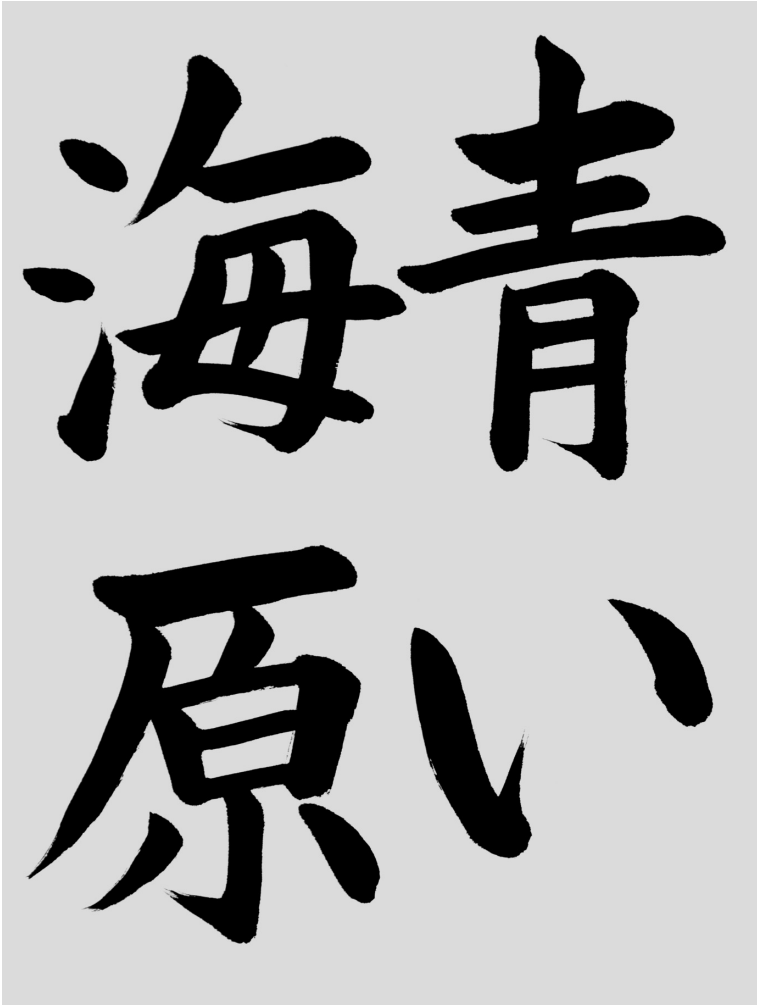
菅井松雲先生書

天体観測（てんたいかんそく）　中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

榎戸春龍先生書

明るい心（あかるいこころ）　小学五年



横川春川先生書

青い海原（あおいうなばら）　小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

藤田幸春先生書

ひこ星（ほし）　小学三年

細谷春誠先生書

ほたて貝（がい）　小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

明石幸子書

は　ち　　小学一年・幼年

明石幸子書

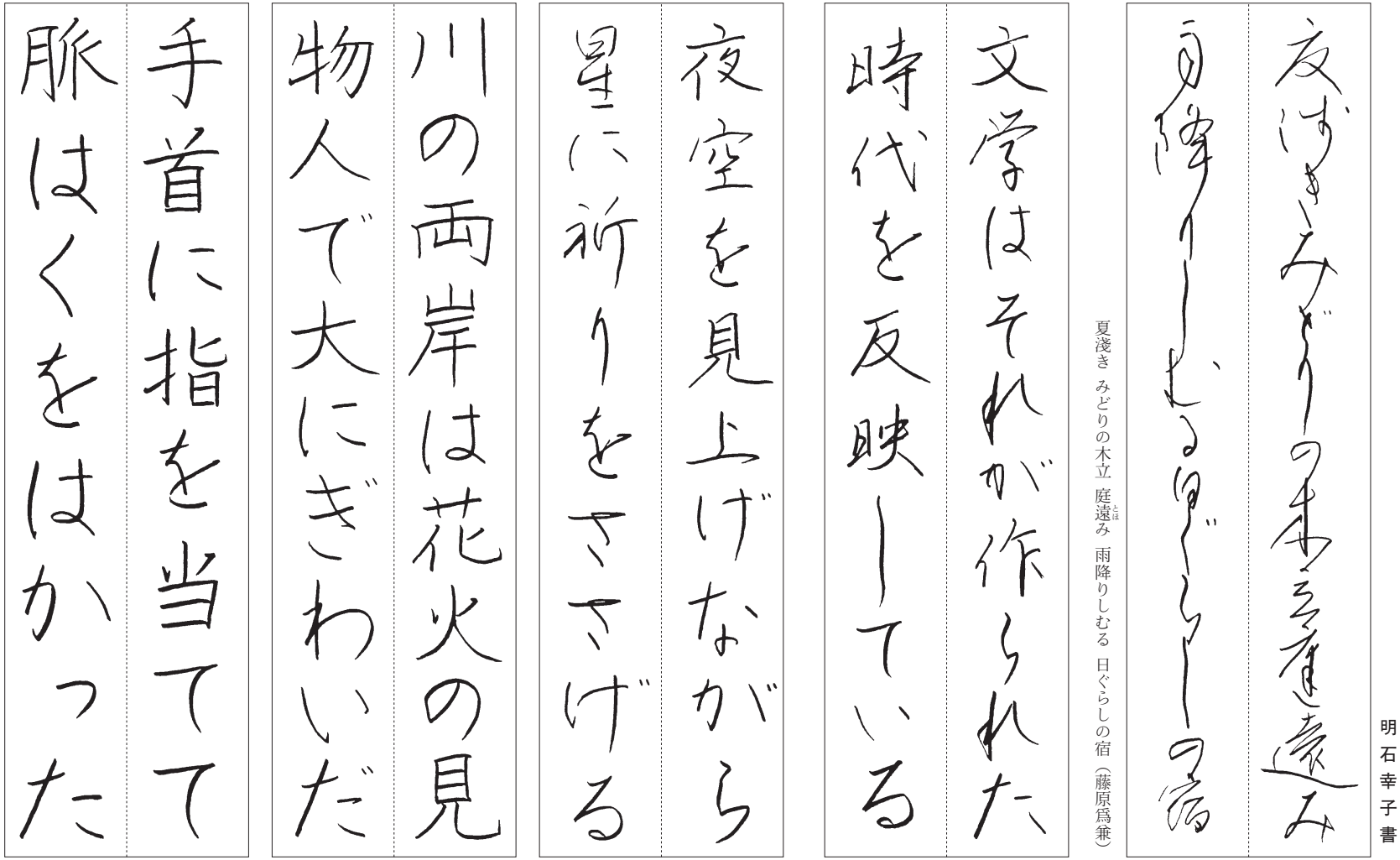
夕（ゆう）　が　お　　小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

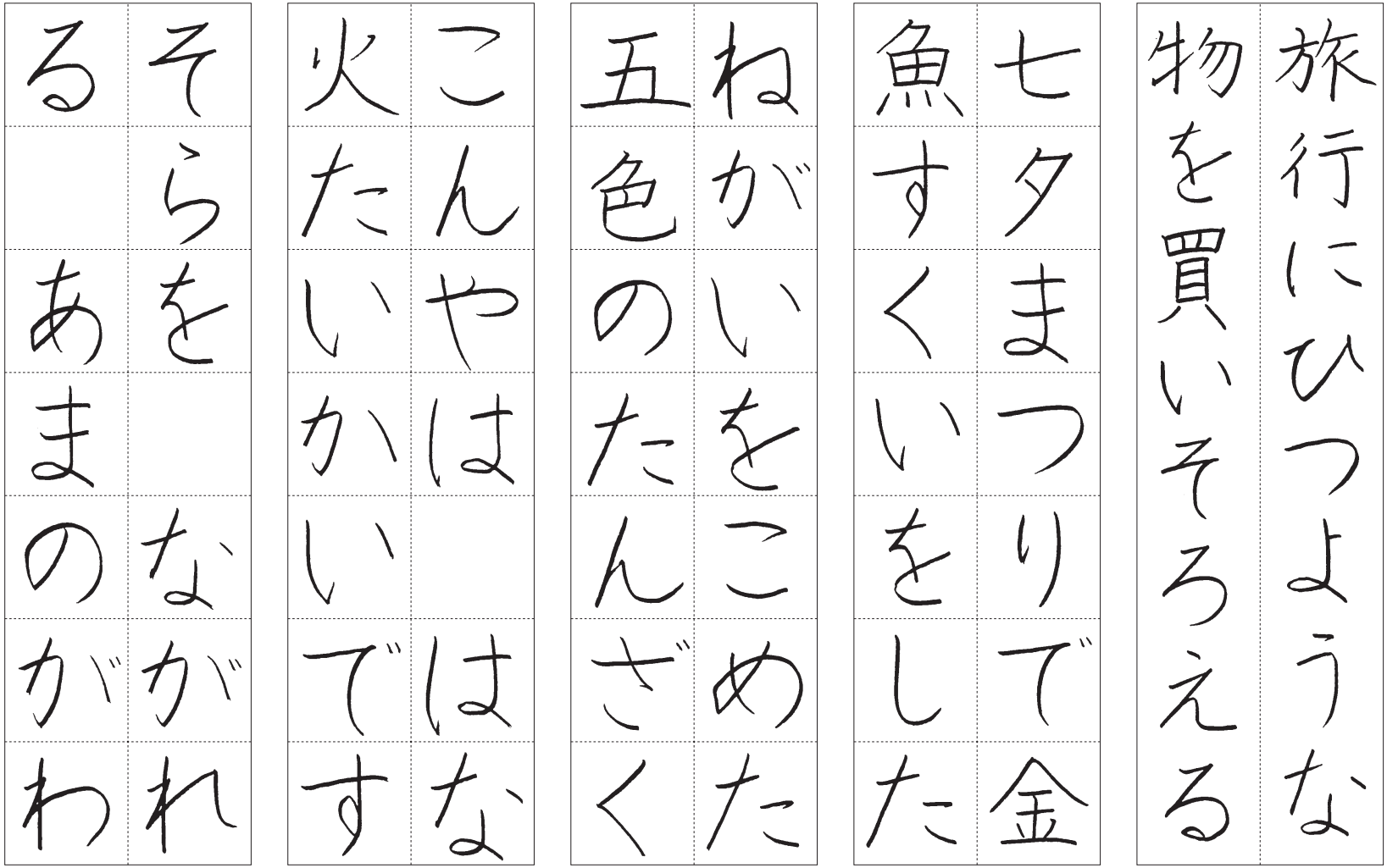


夏浅き みどりの木立 庭遠(とほ)み 雨降りしむる 日ぐらしの宿（藤原爲兼）

明石幸子書

小学五年　小学六年　中　学　一般（級位）　一般（段位）

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



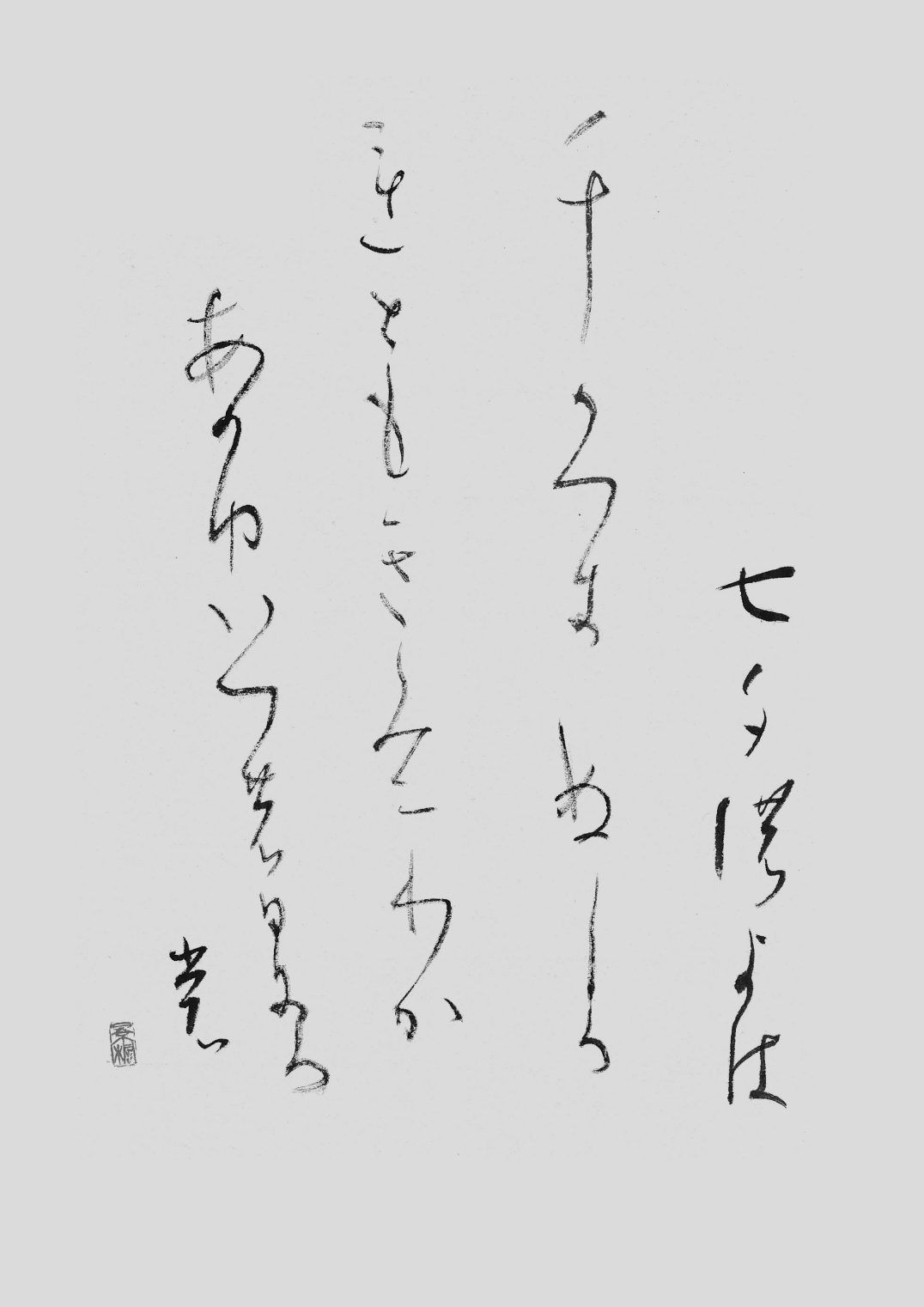
明石幸子書

幼　年　　小学一年　　小学二年　　小学三年　　小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

7月25日正午必着



七夕の　よはちかづきぬ　しかれども　きみにわがあふ　いつの日にかも

濃千可支可連二布農尓可裳

（伊藤左千夫）

岩本景楓先生書